

平成22年度 普及活動のまとめ

活力ある北部の農業



センチピードグラス植栽指導



筒井れんこんPR支援



北部地域農業推進協議会での研修



獣害対策支援

奈良県北部農林振興事務所 農林普及課

はじめに



最近、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、東日本大震災など社会には不安定要素が蔓延しており、これらのことが国内の農業生産に及ぼす影響は非常に大きなものとなっています。一方、諸外国では、中国やインドなどの人口増加や経済発展に伴って、資源や食料の消費が増え続けています。他方、農業生産国である米国等を中心にバイオ燃料の増産が進むなど、農産物の用途も多様化しており、農産物の国際的な需要は今後更に高まることが予想されます。

さて、国では「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、食料・農業・農村政策を日本の国家戦略の一つとして位置付け、大幅な政策の転換を図っているところでもあります。その中で、戸別所得補償制度の導入、食料自給率の引き上げ、農業・農村の6次産業化、食品の安全性向上と消費者の信頼確保などを盛り込み、「国民全体で農業・農村を支える社会」の創造を新たに掲げました。

わが県におきましても、奈良県行財政運営プラン2011を策定し、農業分野において、1.大和野菜等を活かした「奈良のおいしい「食」の創造と発信」、2.チャレンジ品目・リーディング品目を中とした「マーケティング・コスト戦略に基づいた農産物の振興」、3.農業経営のスキルアップ等を目指した「意欲ある担い手への支援」、4.鳥獣害対策の強化など「地域資源を活用した農村地域の活性化」を図っているところです。

こうしたなか、北部地域では、管内市町、農業委員会、農業協同組合等の関係機関・団体と連携を図りながら日々普及活動を展開しております。

ここに、農林普及課における平成22年度普及活動の一端を冊子にとりまとめましたので、これからの地域営農や地域づくりに役立てていただければ幸いです。

今後とも、奈良県北部地域の農業振興と農村活性化のため、積極的に活動を展開して参りますので、なお一層のご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

平成23年3月

奈良県北部農林振興事務所
所長 吉川博行

目 次

はじめに

写真で見る普及活動

平成22年度普及指導活動基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

普及活動の成果

1) マーケティング・コスト戦略に基づいた農業の振興

①地場野菜の生産振興・掘り起こし・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2) 担い手への支援

①担い手支援チームによる担い手への支援・・・・・・・・ 4～5

②青年農業者活動への支援（1）・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

③青年農業者活動への支援（2）・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

④農村女性能力向上研修会・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

3) 農地の有効活用

①土地改良事業に伴う農地の利用集積と有効活用・・・・・・・・ 9～10

②モデル園の設置によるカキ栽培技術向上支援・・・・・・・・ 11

調査研究

1) 平群町と近畿大学の連携活動の支援・・・・・・・・ 13

2) イノシシの効率的な捕獲方法について・・・・・・・・ 14

平成22年度 各種表彰受賞者一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～16

写真で見る普及活動



●女性グループ活動支援（特産品づくり）



●指導・女性農業士研修会
（4Hクラブとの交流会）



●全国茶品評会審査



●果樹生産技術向上への支援
（剪定モデル園の設置）



●小学生の田植え体験支援



●直売所への支援（農薬安全使用講習会）

写真で見る普及活動



●麦生育調査



●品評会審査



●斑鳩の里・農と食のプロジェクト支援
(菜の花プロジェクト)



●担い手支援チーム推進会議



●農産物品評会審査



●水稻生育不良対応

平成22年度普及指導活動の基本方針

「奈良県行財政運営プラン2010」の目標達成に向け、「協同農業普及事業の実施に関する方針」に基づき、市町村・農業協同組合・農業委員会などとの連携を密にしながら、地域の農業の課題に対応した普及活動を次の3課題を中心に推進する。

1) マーケティング・コスト戦略に基づいた農業の振興

新技術や新作目・新品種の導入、生産・出荷組織の強化等によりリーディング品目（大和茶、イチゴ、柿、小ギク）やバラ等の産地活性化を図るとともに、消費者ニーズに対応した流通・販売の充実による地域農産物のブランド力の強化を図り、奈良の新たな特産品創出に向け、「大和野菜」等チャレンジ品目の生産・流通・販売などに対して支援を行う。

更に、地産地消による食と農の共生の推進と地域農業の活性化を図るため、その拠点としての農産物直売所のレベルアップを支援する。また、安全・安心で新鮮な地域農産物の供給のため農薬の安全使用や生産履歴記帳の励行や、持続性の高い農業生産方式の導入を実践するエコファーマー制度のさらなる啓発と農業者に対する環境保全技術導入の支援を行うとともに、有機質資源の有効利用のため家畜排泄物等の利活用に向けた取り組みを支援する。

2) 担い手への支援

関係機関との連携を密にし、地域担い手支援チームによる情報の共有化に努め、認定農業者等経営発展等に意欲ある農業者や法人・生産者団体への情報提供や経営改善への支援を行う。また、担い手ワンストップ窓口における就農相談や産地実践研修等による新規就農者の育成に努める。更に、担い手の不足している地域においては、土地利用型作物の生産コスト低減と農地の面的な保全のために集落営農の組織化を支援する。また、兼業農業者・女性・高齢者等の地域農業を支え、多様な担い手が活躍できる環境を整備するとともに食農教育に対する支援を推進するためあらゆる機会を利用して情報提供に努める。

3) 農地の有効活用

中山間地域での農村活性化の阻害要因となっている野生鳥獣被害に対する対策を推進するとともに、被害防止計画に基づき市町が実施する対策に対する支援を行う。また過去から整備・蓄積されてきた水路、農道、ため池などの地域の農業生産資源の維持・活用を目的とする農地・水・環境保全向上対策の取り組み集落に対して支援する。また、地域の農業・農村に関する情報提供の充実を図ることにより、年と農村との多様な交流促進及び農業教育に向けた取り組みを支援する。

あわせて優良農地を確保するため遊休農地の解消・活用に向けての取り組みに対し支援する。

普及活動の成果

1) マーケティング・コスト戦略に基づいた農業の振興

①地場野菜の生産振興・掘り起こし

対象：白ネギ・レンコン生産者

1. 概要とねらい

斑鳩町稲葉地区では平成19年より白ネギ（稲葉ねぎ）栽培に取り組んでいる。この新品目が地区内に定着するよう生産振興を支援した。

また、地場野菜の掘り起こしとして、昨年度取り組んだ管内直売所での販売品目調査より、地元で栽培が続けられている大和郡山市の筒井れんこんに注目した。筒井れんこんの歴史や栽培に関する調査を行った結果、筒井れんこんは大和野菜と称するにふさわしい特徴があることが分かり、大和野菜への認定申請に向け生産者を交えて検討した。

2. 活動内容

1) 稲葉ねぎ 栽培巡回指導

2) 筒井れんこん

大和野菜認定に向けての情報収集（5月～2月）

定点観察（7～10月）

大和野菜認定に向けての検討会の開催（3月4日）



稲葉ねぎ

3. 成果

1) 稲葉ねぎ 栽培が定着し地元直売所で販売されるほか市場出荷された。



レンコンの収穫

2) 筒井れんこんについて

栽培の歴史・・・戦時中には栽培されていた。

栽培の特徴・・・在来種（白くて柔らかい、甘みもある）が栽培され続けている。

水田と、筒井城の堀跡を利用した湿田でも栽培されている。

生産者との検討の結果、大和野菜認定会議へ申請することとなった。

4. 今後の展開方向

1) 稲葉ねぎは集落に定着したため、今後は、随時栽培指導を行う。

2) 筒井れんこんは大和野菜認定会議へ申請する。生産振興に向けて、課題を整理する。

5. 協力機関名

大和郡山市農業水産課

J Aならけん郡山営農経済センター・J Aならけん郡山支店筒井出張所

2) 担い手への支援

①担い手支援チームによる担い手への支援

対象：認定農業者・新規就農希望者等

1. 概要とねらい

管内では認定農業者数が402名（H22年3月末現在）、40歳未満の農業後継者数が107名（H22年4月現在）、新規就農者数が6名（H21年度）と、農業の担い手不足が進んでいる。

新規就農者や意欲ある担い手を確保するため、まず関係機関の連携を強化し、支援体制を構築すると共に、県事業等を活用した新規参入を含む新規就農者確保のための支援を行ってきた。

2. 活動内容と成果

1) 支援体制の整備

1. 担い手支援チーム

奈良市、天理市、大和郡山市、生駒地域の4支援チームを設置し、担い手支援に関する情報共有や認定農業者巡回を進めてきた。

- ・担い手支援チーム構成
市町農政担当課、農業委員会、農業協同組合、当事務所関係職員
- ・活動 担い手支援チーム推進会議：延べ9回



担い手支援チーム推進会議

2. 担い手ワンストップ窓口

農林普及課に同窓口を設置し、技術や資金、農地など就農相談を行い、農業新規参入者支援事業への誘導や研修生の対応等を行ってきた。

- ・新規就農相談者数：11名
- ・農業新規参入者支援事業・管内研修生数：6名
- ・就農計画認定申請者数：3名

2) 意欲ある担い手への支援

1. 認定農業者支援

認定農業者の巡回等を実施し、経営改善計画の作成支援や、各種事業等の情報提供を実施した。〈巡回情報提供実績 470回/402人〉

2. スキルアップ講座の開催

①北和の農を考えるつどい

(11月29日 トーク安堵加チャーター)

テーマ 「地域で取り組む獣害対策」

講師 近畿中国四国農業研究センター

鳥獣害センター鳥獣害研究チーム専門員

井上雅央氏

参加者 194名



北和の農を考えるつどい

- ②天理市認定農業者研修会
(2月22日 JAならけん二階堂支店)
テーマ「市場動向について
～青果物における市場流通の現状、
産地戦略の成功事例について～」
講師 大阪中央青果(株)
取締役部長 大井賢二氏
参加者 30名



天理市認定農業者研修会

3. 専門家派遣
市場担当者との意見交換会
(1月21日 JAならけん椿井経済センター)
テーマ「小ギクの市場流通の現状と今後の販売戦略について」
派遣者 なにわ花市場他4市場担当者
参加者 26名

3. 今後の展開方向

- 1) 支援体制の定着・強化
 1. 担い手支援チーム
担い手支援チームでの情報共有と連携の強化を図り、認定農業者の再認定に向けた経営改善支援を行うとともに、新規認定農業者の掘り起こしを行う。
 2. 担い手ワンストップ窓口
担い手ワンストップ窓口における相談活動を継続すると共に、新規参入希望者に対する就農計画作成支援等を行いながら、就農に向けて関係機関と連携を密にする。
- 2) 意欲ある担い手（認定農業者）への支援
認定農業者への支援を継続すると共に、スキルアップ講座等を開催し、的確かつ迅速な情報提供に努める。

4. 協力機関名

各市町、農農業委員会、農業協同組合、県農業会議、県農業振興公社他県関係機関

5. 関連事業名

「意欲ある担い手」確保・育成事業
農業新規参入者支援事業
経営構造対策事業
農業経営基盤強化促進対策事業

2) 担い手への支援

②青年農業者活動への支援（1）

対象：奈良市4Hクラブ・天理市4Hクラブ

1. 概要とねらい

4Hクラブには近年、農業への新規参入者などの新規加入者もみられるが、全体の傾向としてはクラブ活動への参加人数が減少しており、個々のクラブの活動だけではなくクラブ間の連携がますます重要となっている。

隣接した地域で活動している奈良市4Hクラブと天理市4Hクラブの交流・連携と両クラブ員の資質向上を図るため、先進地視察研修会を合同開催した。



2. 活動内容

視察日：平成22年7月29日（木）

場所：株式会社クボタ堺製造所（大阪府堺市）

内容：営業部サービスセンター所長の杉本氏から 工場の説明を受けるクラブ員堺製造所についてや（株）クボタが農業機械の安全性に力をいれていることや環境保全活動など社会貢献活動についての説明を受け、コンバイン・エンジンなどを製造している工場内を見学した。

工場見学の後、製造所内の展示場で田植機・トラクターなどの見学を行った。4Hクラブ員からは、エンジンについての質問や、安全を確保するための小型田植機へのバックライトの設置要望などが挙がった。



3. 成果

製造所内の展示場での見学

普段農作業に使用している農業機械について、機種ごとの性能や安全確保の重要性などを学ぶことができた。

また、研修中の意見交換などにより2クラブ員間の交流も図られた。

4. 今後の展開方向

今後も同様の合同研修会を実施し、さらなる交流・連携を進め活動の活性化を図っていく。

2) 担い手への支援

③青年農業者活動への支援（2）

対象：生駒・郡山地区4Hクラブ連絡協議会

1. 概要とねらい

生駒・郡山地区4Hクラブ連絡協議会のクラブ員は、野菜や花、果樹など様々なものを栽培している。

自らが栽培している農産物の特徴を知ることは、農業経営を行う上では重要なことである。そこで今回は、生駒地区で栽培されているバラを題材にフラワーアレンジ講習会を行い、自らの生産物の活用方法を模索・検討を行う。

2. 活動内容

1) フラワーアレンジ講習会

講師：浜田 理香（フラワーデザイナー）

開催日：平成23年2月12日

場所：平群温室バラ組合出荷場

3. 成果

平群町の特産品であるバラを利用して、バレンタインをテーマにフラワーアレンジの講習会を行った。花材には、4Hクラブ員の生産するものを使用した。

この講習会により、バラがフラワーアレンジ用のバレンタインの商材として十分活用できるものであることが確認できた。



4. 今後の展開方向

- 1) 今後は、他の農産物についても活用の模索・方法の検討を行う。
- 2) このような活動を通じ、クラブ員間の交流を図り組織を活性化させる。

5. 協力機関名

平群温室バラ組合

2) 担い手への支援

④農村女性能力向上研修

対象：管内農村女性

1. 概要とねらい

近年、水田の有効活用による食料供給力向上のため米粉がクローズアップされ、米粉を活用した商品開発への期待も大きい。また、消費者の米粉に対する認知度が高まってきたこと、簡易な製粉機で自家製粉する生産者も増えてきたことなど、米粉利用の気運が高まってきている。そこで、米の消費拡大とイベント等での販売を念頭に置いた商品開発の一助となるように、米粉を使った料理講習会を実施した。



市販されている様々な米粉

2. 活動内容

1) 米粉を使った加工品開発研修

講師：北部農林振興事務所普及指導員

開催日：平成23年1月21日

対象：管内農村女性 21名



米粉の特性を説明

3. 成果

直売所での販売を想定したコストパフォーマンスの高い米粉のシフォンケーキとイベントでの販売を想定した米粉のおやき等の講習を実習形式で行った。

参加者は米粉のグルテンを含まない特性や挽き方による粒子の違いをよく理解した上での利用方法を学んだ。その結果「思ったよりも簡単に使えた」「特性を理解できた」などの意見が出された。今回習得した技術をそれぞれの地域で広め、さらに新しい加工品の開発も手がけていきたいという意識がみられた。また、農産物の栽培や加工について活発な情報交換が行われた。

4. 今後の展開方向

1) 加工技術・販売許可に関する情報提供

5. 協力機関名

天理市生活改善グループ連絡会

北和農村生活研究グループ協議会



実習の様子

6. 関連事業名

女性活動促進事業

3) 農地の有効活用

①ほ場整備事業に伴う農地の利用集積と有効活用

対象：奈良市田原土地改良区

1. 概要とねらい

奈良市田原地域においては、県営ほ場整備事業にともなって意欲ある担い手への土地利用集積を図っている。南地区については、工事が終了する平成24年度までに土地利用の集積を行っていく必要がある。また、西地区では疎植による水稲の低コスト化、北地区ではセンチピードグラスによる法面管理省力化について支援を行った。

さらに、平成21年度から行っている新規転作物（マコモタケ）の導入については、早生系統を重点にして試験栽培を行い、今後の生産販売体制確立に向けて検討を行った。

2. 活動内容

- 1) 利用権設定を行うための農地利用調整に関する打ち合わせ会の実施
- 2) センチピードグラス植栽指導
- 3) マコモタケ栽培実証圃の設置

3. 成果

1) 農地利用調整について

南地区のリーダーとの打合せを計5回実施し、農地の利用調整を図った結果、利用調整済みの5haに加えて、新たに5haの集積を内定した。実際の利用権設定は工事完了の目途がつく23年度以降に実施することで合意が得られた。

2) センチピードグラスについて

北地区においては基盤整備によって大きくなった法面にセンチピードグラスを植栽し、管理労力の削減に取り組んでいる。22年度にも地元生産者の協力を得て、新たに13aのセンチピードグラスを植栽した。



法面に植栽されたセンチピート

3) マコモタケ栽培実証圃について

2年目を迎えたマコモタケ栽培実証であったが、22年度は酷暑の影響により、収穫開始が遅れるとともに、わずかではあるが花穂が発生した株があった。昨年の結果より、良質な早生系統を中心に栽培したため、収穫時期が遅くなっても、黒穂菌による黒点の発生は少なく、品質は良かった。いくつかの直売所への販売ルートが確保できたため、昨年と比べると出荷量は増えたものの、収穫期間が短いことが課題として残った。



マコモタケの定植

荷造りされたマコモタケ



4. 今後の展開方向

- 1) 農地集積は平成23年度には、利用権設定の具体化を進め、最終平成24年10月の申請に間に合うようにする。
- 2) センチピードグラスは、資材購入も含めて地区の自主的判断による植栽ができるよう誘導していく。
- 3) マコモタケ栽培は、量販店への販売も念頭に置いた販売ルートの確保と地区の自主的栽培に向けて誘導していく。

5. 協力機関名

田原土地改良区
奈良市

6. 関連事業名

担い手育成土地利用指導・調整事業

3) 農地の有効活用

②モデル園の設置による力キ栽培技術向上支援

対象：天理市力キ生産者

1. 概要とねらい

天理市の山の辺の道周辺の山麓沿いでは果樹栽培が行われている。中でも柿の栽培が盛んであり、渋柿の産地を形成している。しかし、この地域独特の密植栽培とせん定方法が、作業効率の悪さや高品質果実生産を阻む要因になっている。

生産者の意識改善を図るため、目で見て理解できるせん定モデル園を産地内4地区に設置した。この取り組みは、作業効率の向上の点で放任園化の未然防止も期待できる。

また、複合経営等により、摘らいを実施していない地区もあることから、一般管理の方法として実践に移してもらえるように啓発を行った。

2. 活動内容

- 1) モデル園のせん定(前年度2月)
・摘らい(5月)・仕上げ摘果(8月)および2年目のせん定(2月)を実施した。
- 2) モデル園と慣行園について果実の階級比率の聞き取りを行い、比較した結果を講習会において生産者に示した。このとき、労力軽減などの改善効果も併せて説明した。



せん定講習風景

3. 成果

- 1) 4地区でせん定実習を行うことで多くの生産者が集まり、実際に作業を体験してもらったことで、ポイントを体得してもらうことができた。
- 2) 階級比率の聞き取りの結果、小玉果が大幅に減少し、単価が高い大玉果の増加が見られた。この結果を管理講習会で情報提供したところ、せん定方法の改善に取り組む生産者が現れた。

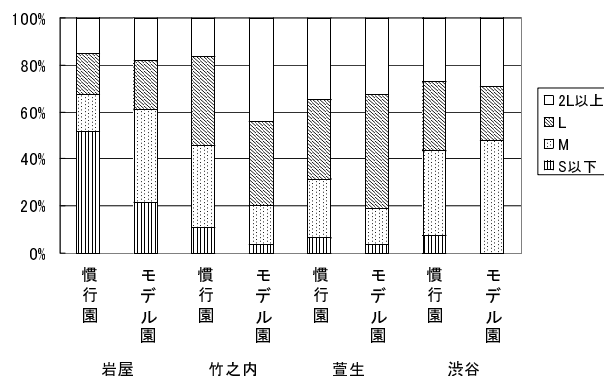
4. 今後の展開方向

せん定方法を大幅に変更したことから、理想的な樹形に整うまでは数年間手を加える必要がある。継続的な活動を行うことにより地域での技術の定着をはかる。

5. 協力機関名

天理市果樹園芸組合

J Aならけん天理・山辺地区果樹部会



各園地の果実階級比率

調査研究

調査研究課題	露地小ギク産地における I P M 技術の実用検討		
担当者又は係、チーム名等	農林普及課農業指導第二係	協力機関	平群町・近畿大学・病虫害防除所
<p>1. 背景及び目的</p> <p>平群町の特産物である小ギク栽培において難防除害虫（オオタバコガ・ハダニ等）による品質低下や防除労力負担の増加が問題となっている。 また、花き類は要防除水準が高いことから薬剤散布量が多い傾向にあり、環境への負荷が大きいことも問題である。 そこでネットハウスや天敵の利用などにより、農業のみに頼らない I P M（総合的害虫管理）技術の実用導入の可能性について研究を行う。</p>			
<p>2. 調査研究方法</p> <p>①産地内に定着している土着天敵の発生状況の把握（キクほ場内及び周辺）を行う。 ②天敵に影響の少ない薬剤防除体系実践ほ場を設置し、ハダニ、及び天敵の発生状況について慣行薬剤散布ほ場との比較を行う。</p>			
<p>3. 調査研究結果</p> <p>6～11月にかけてキク圃場及び周辺における土着天敵の調査をしたところ、ケナガカブリダニが活動していることを確認した。 ケナガカブリダニの発生の特徴としては、圃場内ではハダニ発生後、増加する傾向がみられ、また、殺虫剤の散布回数が少ない圃場・天敵に影響の少ない薬剤防除体系の圃場では、より多くのケナガカブリダニが確認できた。 圃場周辺では発生時期は7月中旬と9月下旬の2回あることがわかった。また圃場周辺の植生植物でも調査したところクズでの生息が多い傾向が見られた。</p>			
<p>4. 考察</p> <p>今後の平群町の小ギク圃場において土着天敵であるケナガカブリダニを利用していくためには、農薬散布回数を減らすためにネットハウスの設置は効果的であると思われる。 併せて、天敵に影響が大きい殺虫剤の使用を控えることによって、カブリダニの活動が活発化するため、ダニ剤の使用回数も減少し、慣行と比べ農薬の総使用回数を大幅に減少させることができ、露地小ギク栽培における I P M 技術実用の可能性が示唆された。</p>			
<p>5. 地域への波及性</p> <p>今回の調査研究は近畿大学と連携して取組み、その成果については小ギクの生産者団体である西和花卉部会での講習会、平群町農業委員会での報告会等で周知を行った。 I P M 技術の前提となるネットハウスの導入については、年々増加しており、地域への I P M 技術実用への環境が整いつつある。この成果を生産者に周知し、地域への環境負荷軽減、生産者の農薬散布作業負担軽減等の実践を図る。</p>			
			
近畿大学と連携し調査を実施		農業委員会での成果報告会	

調査研究課題	イノシシの効率的な捕獲方法について		
担当者又は係、チーム名等	農林普及課 小野大吾・山本尚明	協力機関	信貴生駒山系鳥獣被害対策協議会
<p>1. 背景及び目的 信貴生駒山系では、近年イノシシによる農作物や法面崩壊などの被害が多発しており、早急な対策が求められている。 しかし、農家では個々による防護柵（主に電気柵）での対策、また猟友会による箱罠やくくり罠での捕獲がメインとなっている。 そこで、昨年度末に発足した信貴生駒山系鳥獣被害対策協議会（生駒市・平群町・三郷町）が今年度から獣害対策を取り組む事になった。 今回、ほ場を荒らすイノシシを対象に、防護柵と箱罠を併用した効果的な捕獲方法の確立を目的に調査研究を行う。</p>			
<p>2. 調査研究方法 (1) 実施場所及び実施対象 実施場所：生駒市小平尾 平群町鳴川 三郷町信貴南畑 対象：イノシシ被害地区 (2) 実施期間 平成22年11月～平成23年3月 (3) 調査項目 イノシシの行動調査 (4) 調査方法 ほ場の外側にワイヤーメッシュ柵を設置後、柵の途中に箱罠を併設。赤外線カメラと記録媒体を近くに設置し、イノシシの行動調査を行う。</p>			
<p>3. 調査研究結果 ワイヤーメッシュ柵を設置後、カメラによるイノシシの行動を確認したところ、柵沿いを歩いて移動し、途中に設置された箱罠にスムーズに到達した。 イノシシの出没時間については、初日は午前2時頃であったが、慣れるに従って早くなり、12月～2月頃では、日没ごろ～午後9時ごろに出没し、日没前から出没する日もあった。しかし、夜明け前にイノシシの行動がみられた日はなかった。 最初の内は、何日間も出没が見られなかったり間隔があいた日もあったが、餌付けで慣れていく内に、ほぼ毎日出没するようになった。 頭数については、単独で行動している個体と2～5頭の群れで行動する個体が確認された。また、同じ日に2頭の群れと5頭の群れが時間をずらして行動している事もあった。 大きな個体は、警戒心が強く、なかなか檻の中まで入ってこなかった。</p>			
<p>4. 考察 柵設置後の結果より、ほ場を荒らすイノシシを箱罠に効率よく誘導して捕獲することが可能と考えられる。 箱罠設置後、箱罠内のエサが減ることを確認出来るまでは、入り口のゲートを固定し、確認できた後にゲートの固定を解除して捕獲を行えば、何日も張り込む必要がなく、数日間で捕獲できる可能性が高い。 また、別々の群れを効率良く捕獲するためには、捕獲後、携帯電話に連絡する捕獲監視システムなどを使用し、捕獲されたイノシシを速やかにと殺または移動檻に移し替えて、他の群れに警戒心を与えないようにすると学習されること無く、引き続き捕獲が可能になる。 警戒心が強い大型のイノシシが確認されたことにより、数頭の群れで来た場合に好奇心旺盛なイノシシだけが捕獲され、警戒心の強いイノシシを捕獲出来なかった事が考えられる。今後、一斉に捕獲できる方法の確立することで、より効果的な捕獲が行えると考えられた。</p>			
<p>5. 地域への波及性 現在、箱罠の設置については、山中や山際に単独で設置されているのみで、確認も1日1回昼間に行うだけだった。 今回の結果により、1つの箱罠でより多くのイノシシを捕獲することができ、ほ場に依存したイノシシのみを効率良く捕獲することが出来ることで波及性は高いと思われる。</p>			

平成22年度 各種表彰受賞者一覧表

賞 名	主催団体	表彰事業及び品評会名	受 賞 者 (敬称略・順不同)	市町名
奈良県農業賞 (個人の部)	奈良県	—	辻澤 靖彦・マス子	奈良市
(団体の部)	奈良県	—	大柳生営農組合	奈良市
—	(財)農業振興会館	農業振興功績者表彰	前田 宏	奈良市
—	同 上	同 上	田原土地改良区	奈良市
—	同 上	同 上	天理市生活改善グループ連絡会	天理市
農林水産大臣賞	奈良県農業協同組合	奈良県いちご立毛品評会	岩井 寛	奈良市
近畿農政局長賞	同 上	同 上	中井 正嗣	天理市
近畿農政局長賞	同 上	奈良県イチゴ果実品評会	佃 繁憲	大和郡山市
農林水産大臣賞	同 上	奈良県夏秋なす立毛品評会	徳谷 寿明	奈良市
農林水産省生産局長賞	同 上	同 上	木村 幸宏	天理市
近畿農政局長賞	同 上	同 上	冬木 伸佳	天理市
農林水産大臣賞	奈良県 他13団体	第64回全国お茶まつり奈良大会 (普通煎茶10kgの部)	久保田正剛	奈良市
同 上	同 上	同 上 (普通煎茶10kgの部)	井ノ倉光博	奈良市
同 上	同 上	同 上 (普通煎茶4kgの部)	軽井 隆大	奈良市
農林水産省生産局長賞	同 上	同 上 (普通煎茶4kgの部)	久保田清隆	奈良市
同 上	同 上	同 上 (普通煎茶4kgの部)	久保田清徳	奈良市
農林水産大臣賞	全国茶生産青年団	第27回全国茶生産青年茶審査技術協議会	奥上 武毅	奈良市
農林水産省生産局長賞	同 上	同 上	畑家 善次	奈良市

賞名	主催団体	表彰事業及び品評会名	受賞者 (敬称略・順不同)	市町名
農林水産大臣賞	(社)奈良県茶業会議所	奈良県茶品評会	徳田 宏泰	奈良市
農林水産大臣賞	奈良県茶生産青年協議会	奈良県茶園品評会	筒井 俊彦	奈良市
近畿農政局長賞	同上	同上	窪田 良蔵	奈良市
農林水産大臣賞	奈良県農業協同組合	花き植木立毛(植木)品評会	西野日出男	平群町
近畿農政局長賞	同上	同上	中川 九洋	平群町
近畿農政局長賞	奈良県花き植木農業協同組合	春日大社・県切花品評会	尾崎 一郎	平群町
農林水産大臣賞	奈良県農業推進協議会 大神神社豊年講	農林産物品評会	片岡 啓司	大和郡山市
近畿農政局長賞	近畿農政局	地産地消優良活動表彰	月ヶ瀬温泉ふれあい市場	奈良市

全国および県規模の表彰事業における主な賞の受賞者について記載



北和農村生活研究グループ協議会・食育活動

平成22年度普及活動のまとめ 活力ある北部の農業

平成23年3月発行

奈良県北部農林振興事務所 農林普及課

農業指導第一係

〒632-0004 奈良県天理市櫛本町2460

Tel.0743-65-1315

農業指導第二係

〒639-1123 奈良県大和郡山市筒井町600-3

Tel.0743-56-1600